

庭訓維來古注

全

A 00
4015



陽春廬記

南藝彙庫

夫執國之風化

地開始於天浮橋陰陽之二神初

言
次
和
之
以

未嗣續而至千百王之末，畢中間

天記

田木明神化生從享官人當時外
是也四道書文無師而自修明之書

江表歸之爲王師如文武成之長子房乎凡文者載道之器也器爲寶也如何夫必學也亦學則不知道

六六身不成立是以謂非理無之更六有顯理

巧誠哉。筵五日。之。皇胥。包以無不及。談話可謂之矣。

也梵漢和之隔以語音分列語音不通之取秦晉

里川眞賴氏ノ廟宇ニ行テ予ニテ奉告リ
相似ルヲ知旨ニ試シ左ノ如キ事アリ
建書十四五年ノ前宗師高岩木村勝助ニテモ今日故才庵ニ新增御用集下字
集ヲ撰テ一冊分明ニ至リ時代ノ錯ミリハ前記諸山五山本ニテ未嘗見
リ永二比奈リ五山ノ傳ノ者ビレモノナリト云テ説ニ此ニテ宗師傳ノ
安政四年巳年六月朔日
因ニ款々保信友府存正ノ弊疑平ヲ見セシメ今則チ云文部館ノモノナラント報
タ禮テ留置可シ左スレバ函附鉛筆一錠ヲ以テ決之ヲ可ナレバ

神谷 三國

三藏之字者歟然則蝌蚪亦假名近復相通而
曰安米風云寔征筆曰不天硯曰松籟制其傳唱鏡
也或及文章則逐句於字如顯王伏立種之句之法
義仁皇九十九代後醍醐天皇御宇靜軍親經公時
有北畠^{義時}法印人山門爲上綱或時徒然之餘作
此書以被誦習山田之御童子當帝依及關食召出
叔感之故被置禁中淡路殿帝詔而示布天下然間
源三位預之本經史子集之四部甲乙丙丁以爲次
同四部備副軸帶帙皆異冠甲部經紅牙籤乙部史

銀牙籤丙部子碧牙籤丁部集白牙籤式目庭訓是
等之類本集部料紙表也表幅白紙散銀薄軸白上
下共三方橫三方紙之長一尺三寸五方上二寸下
一寸代今自誌部之中求古更集解部經或枕順和
字也又有假難波津安積山竺丸之更也式三十一
字十四字十七字風傳出于處序匙曲示之法追尋
似道之起而已

私曰按而公家之各有十三部所經不盡往來而
往來則檢非實性未開每集式本集制往來所
警物猶不也凡有人望武然等詩則用朝華望手
則不基用文章則用衡望物能源代伊勢物語

石名訓

石名一、看木、于伯鯉魚、掘庭、而問、詩、元
之、訓、也、鯉魚、過、一、乙、二、度、也、故、謂、之、二、一

人。也。合。十。二。月。以。製。之。文。章。未。記。而。節。之。風。物。致。也。性。素。若。歸。性。未。致。或。一。皆。性。子。被。一。皆。果。于。此。之。致。也。或。亦。古。性。合。來。之。致。也。

朕存
惠臨

陽春曰春夏爲陽秋冬爲陰春春融也言冬
寒陰極至一春方物皆蠢之義也春始動改

木字盤五層春云則方也怡一季有九十日春悅討晉則脫節不吟故曰怡明正月之義向貴方

年貳貴

富貴者福獨以韋甚之

富財也。曰未錢充滿也。貴位也。曰子宮子位也。百福在天。旦福在地。曰旺也。幸甚。前卜真。後云。且。重。

花得善者蓋也。玉種花而得善者。折歲初朔拜者。抑

前稱後之辭也。稱拜天子必天明。昏拜天地四方。

又臣下君爲出仕曰也。愛對石見齊謂美也。康乃

得
以朔日元三次可急甲之虞
日也神才三天津廣火午
始也三日月日三也又元
為也中安端十五日今以三
个日專程也急君祀早也
人个公卿殿上人也子月
出南都拿泰山府君也即
不犯瓜面雪霜也拿龜公
詩歌管然透也又三尺松
解个年翠瑞手河奇日子
引又正月任一日至七日
八日日報日見新耕說又
初也此日以七種菜作卷食
中芥著五斤田平子仙座
以來不用初子只以人月
者正七三六五八初九
月獲也生也言丁月
已死而又生也
神尊御宇始也
正月視廿日及
被駁催人个子月
正月初子也推家
初子也推家
人个自禁中東出用
松根京上元節
詩歌管然透也又三尺松
解个年翠瑞手河奇日子
引又正月任一日至七日
八日日報日見新耕說又
初也此日以七種菜作卷食
中芥著五斤田平子仙座
以來不用初子只以人月
者正七三六五八初九

延引似谷萬忘營花
言萬依武宿奏去人
也義乃花小蝶遊日影
營楊也花小蝶遊日影
李意懷平願不正
三午人右地后寔貴地一人
弓射後地彌伏之箭也日
小弓故曰楊弓笑此也
舊會也言此遊舍為立物
楊弓法鏡射也
致口崔小弓也豎懸小串
落朝朝面日有其射鳥則射
軍作也豎懸如令所射十
花立棚也又三張射有二三
射手教作串置面射手二分
串一三又以前有銀坐中
張銀坐女始主的前也又
射手四一蓄二蓄必有太

特今今天中的則第二三一矢當三射一手中劍第
 四立也金人不然文不將矢中勝生則一矢四元五
 也一審皮於二審為三射也二審忽矢中則一審忽
 之疾射錢取也又二審忽前一審忽為射三審忽後
 又串之則二審之勝也是串數取錢也兩方得軍子
 大將以勝負也勝也勝也勝也勝也勝也勝也勝也
 登三尸也中尸則勝草鹿矣物遊代本衙門御宇五
 手年中賴朝為富士野牧將曹古以棄作鹿之倫上
 句棚中尾方射習也本將底足中除而不見棚
 也背見意北射也安物也草鹿作物取也竹布見棚
 一的而回也相裡各兒字也快而的案左蒙目也英
 帝於南山攻伏也三九手夾八的等曲即九的
 故居南山可誘也三九手夾八的等曲即九的
 九也此田三度目矢一射按日八的也武八的也
 英扇紙丰楊葉疊紙小刀梗槩下針之八也小筆東
 派秋也鈍懸八枝四枝起立馬場之尤右行級射九

右也曲三 近日行續結營 營一四 尋常射手 八尺
 進退也 過尋口常蓋口弓長也又有 馳挽達者 可惡弓 步
 常心愛騰射手可心得也 有 柳誘引思食之結者本望也心更急多為酬答會
 之次季不忌雷電 今之毛筆也 忍今 誣言 敬白自
 也碩首台至敬也 墨黑更台當跪也敬也俗人對
 出象谷也其餘真甲行有上中下初官思今誣言
 可分也

正月五日 自思台 左衙門尉蕭原 官陰府名不
 姓上 晉安 官賞識 也 藤氏 天智 守錦足
 田大臣 怡怡 也 刻 亮 石 平 左 門 筆 下 五 晉
 誣上 堂議 自日付一字上可晉內筆 石見 守 殺 今 案
 日付 晉 會 一 字 下 五 晉 也

大相當三德之注
 府名筆書換射

早可肩有上中下內封，更隱密，狀若祀儀，而封其上。
名字官計，皆也。上包上經下長也。實說，肩各經，通
上板田大和寺殿，御宿莊，藤原秀卿，裡田原藤太，而
肩有官性，不可肩官子，名象而肩，裡名字計，可肩也。
通例，題上何殿，御宿莊，我名字計，皆也。係人，可肩
更早，汗文狀，上包進上，裡上，皆不可有名字計，可肩
若始，同名，官經名，可肩御宿莊，不皆也。武各，名字計
可肩其修，同殿，御宿莊，官分，肩各象，不可肩裡，皆無也。
若其，面何殿，以宿莊，皆裡，裡名字官，皆也。武官，皆
榮利，皆宜，日付，下利了，大夫，可肩利，可肩象，皆，可
皆，榮利，計，皆，名字，皆，不可肩也。或說，口打然，限，皆榮利，
可肩，做，名字，皆，可肩也。

改年吉慶被任御意，余先以日出度覽候，并道改
談也。日出，昔天照大神，素盞鳴尊，天下，天照
大神，岩戶，卷結間，天下，七日，夜成暗也。此，八，百

神達於岩戶前，夢神奈給，天照面白思食，戶少間
有御覽，其水，天照，御目出，見於神奈目出，云給自之
始也。其水，木，雄尊，取岩戶，推屋空給，天下，可也。
其戶，落，備，以，令，戶，度，是也。令，雄尊，列，左，津，有神，自
佐嘉，幸，个，万，个，个，御芳，札，披，見之，於，青陽，遊，寧，珠，亦

重候，昔，東，龜，言，陽，氣，自，東，後，間，口，言，陽，
霞，忽，披，月，令，東，瓜，表，解，水，也，何，因，口，言，荷，
山，有，五，水，奈，水，氣，上，蒸，為，霞，也。即可促拜

仕之，處，遷，拜，款，可，自，他，故，障，不，應，之，至，也。為，改，有，百
手達者，射手，十六，人也。言，百人，勝，口，也，達，者，是，也。完
竟上手，一，兩，輩，可，全，同，道，也。但，的，矢，个，个，个，三，郎，以，鶴

手重，一，手，以，三，步，出，也。墓，目，等，無，所，汰，憚，入，候，目
三，手，也，作，一，手，白，羽，一，墓，目，等，無，所，汰，憚，入，候，目

和曰人言引是也
手物自是也

一乘世四一勝四也亦燈臺目家也魯丕合于一
一執者中課優種有也執之也賜引手物者亭

主奔走扶賜付的詳也引手物蒙口晉顧在洛陽

不知月堂意也采士曰豈有然見取也

御意可得乎此可易也引手物也

御意也可得此大匠達師也

併期面謂之取何愛也羅似也忍令謹言

正月十五日此日有燈作神吳至曰西方山中有

西人長一尺余入見之則為寒然名山

謹上左衛門殿

石見寺中原

此性見

面拜之後中純良久遺恨如山何時散意露哉

子夏過中子食入食至日費也中子曰君子有

三費飲食亦有其費中子曰先志一費也君有切輕

純一費也是中純一費也似隔謂越之也

言遠猶以个悔之也柳稷補雲林院花

林院近京何梅道濃香芬々勾己感也

地也雲林可流也

作四言詩奉先明皇詩曰三聖山有八重楊此見錯

多悲哥此詩以句歌一字二度誤改為四言也

心日添取社登山楊伊氏見伊社羅天玉級洛後皇

蓮花村上五五佛
蓮花村上五五佛
蓮花村上五五佛
蓮花村上五五佛
蓮花村上五五佛

良結也自此
天下善堂橋
管相口散惜
散面白山橋
花下好士
千武集漢成卿
山迎木保春心
衆物僮僕難合
以步行美思立
樣左道送也
本望也
初有三十
一累敗之
金房左道
和歌連去

冬其八重垣
誘引以其次
言河武以平
教更白馬置
了字之思泉
字作爲一字
小竹筒等者
欣如何心底
自此始也
代然事也
次不具證言

二月廿三日

彈正忠三書

鐘上 大監物殿

教自是令申張于遊而預見同儕同心之至多生嘉
會也柳花之應會豆花鳥以月未好士無字詩歌管
絃字字文佳甚幸臣伶儔代代味管弦之可謂聖人
八鳴嘉齡延年方也聖人也御勸進之蚌相叶李懷
懷去哉復花庭前花深山叢樹栢誠以同數最中也
前數自未樹王始也教曰今日不見若令明之降有
苦可花堂嘆不殘教不始言最中也若令明之降有
暑風霖雨者暑風也無念豆也同去片時急度
無令存也和歌魚仰人九赤人之古風古風也傳也

十一代精規朝人也木長了未進去破見回高集有
神世曰當時子律浦吟殘雪隱歌必氣真面目憂初
以前先同荷曰石見方子律松本河浮世月見單我
人九望王陸改就休明石浦精規曰對元未樂人也
吾曰人也依其曰人九唐王曰我為朕日本王曰我
為九極其和和州下野下然知有之中野州守
都官明神人也教道和也和歌三人未竟長教首
如我佳吉人九也赤人未竟武朝人也
如六有日長歌三十一字曰短奇令三十一字為
長詞四六有為短自長看至落數看十作也述代
上十辨用六美長奇曰行履速方人物中替其集
白嘆心花替我此奇七字金也曰之語既有長奇
日三十短歌心惱者云是該顯教曰若上明石浦解
一字也短歌心惱者云是該顯教曰若上明石浦解
歌若今五字級也特規太子三字和崩漸哀悼奇也
若今一切眾生初教心口作長短方教服也又
何字文錄字指方更方化也云也朝廣阿勢至位
古觀音裏若祇虎曰三身如來也四尸隱行人

以上三下

此詩見...
...
...

廣人... 煩... 此... 四... 隱... 混本...
每惜思... 不見日... 西方極聖...
... 見... 世... 如... 志...
... 說... 說... 曰... 品... 本... 有... 說...
... 若... 於... 白... 氣... 情... 是... 雙... 十... 句... 有... 途... 七... 氣... 以... 西... 極... 聖...
... 輪... 迴... 奇... 口... 長... 衣... 十... 眼... 皆... 目... 醒... 成... 來... 停... 聖... 花... 前... 月... 思... 軌...
... 里... 世... 收... 徒... 花... 冠... 錦... 幸... 良... 戶... 太... 此... 落... 花... 也... 又... 三... 月... 月... 奇...
... 心... 要... 年... 有... 武... 廿... 日... 全... 九... 日... 云... 春... 美... 如... 香... 此... 皆... 停... 聖... 奇...
... 行... 越... 不... 獲... 義... 雅... 性... 吉... 松... 也... 所... 然... 落... 聖... 之... 射... 落... 聖... 之...
... 第... 式... 了... 機... 四... 聖... 沈... 長... 秋... 野... 牽... 走... 腹... 四... 詩... 連... 句... 未... 乍... 汲...
... 管... 家... 江... 家... 之... 旧... 孫... 輩... 孤... 休... 獨... 守... 人... 也... 亦... 有... 父... 母... 矣... 管...
... 客... 歌... 美... 善... 非... 只... 人... 向... 曰... 君... 誰... 人... 子... 自... 何... 處... 來... 兒... 吾... 曰...
... 我... 是... 兒... 親... 毛... 佳... 迎... 歡... 奉... 歡... 君... 為... 子... 當... 幸... 臨... 耶... 見... 白... 而...

為子... 文... 皆... 日... 刻... 七... 告... 而... 始... 作... 詩... 也... 彼... 人... 上... 野... 子... 日... 莊...
... 江... 中... 里... 是... 也... 日... 素... 一... 係... 更... 忘... 序... 表... 賦... 惡... 儻... 純... 韵... 志... 之...
... 道... 徑... 此... 西... 人... 始... 也... 笑... 天... 子... 四... 六... 三... 分... 皆... 也... 賦... 四... 六... 隔... 句... 皆... 也... 儻... 純... 祇... 林...
... 實... 序... 結... 也... 次... 也... 歸... 也... 前... 軍... 後... 輕... 骨... 也... 表... 皆... 表... 成... 心... 奉...
... 社... 日... 鼓... 茅... 屋... 午... 眠... 難... 也... 頗... 如... 據... 猴... 似... 人... 同... 堂... 火... 播... 燈...
... 然... 而... 被... 官... 加... 人... 數... 一... 方... 者... 殆... 可... 招... 後... 日... 無... 辱... 殆... 危... 也...
... 也... 執... 筆... 教... 句... 賦... 物... 以下... 賦... 物... 山... 路... 未... 人... 每... 日... 之... 五...
... 朝... 夕... 花... 白... 唐... 香... 手... 下... 初... 屋... 處... 中... 鳥... 鳴... 氣... 不... 文... 物... 世... 今...
... 至... 此... 二... 十... 三... 何... 字... 下... 皆... 也... 一... 字... 露... 氣... 日... 大... 致... 香... 名... 菜...
... 是... 一... 字... 訓... 妻... 也... 二... 字... 及... 音... 花... 一... 字... 露... 氣... 日... 大... 致... 香... 名... 菜...
... 是... 也... 三... 字... 中... 署... 霞... 為... 城... 舊... 蒲... 為... 雨... 桂... 為... 唐... 之... 差... 是... 也...
... 而... 代... 房... 橋... 之... 差... 也... 是... 也... 乃... 心... 得... 才... 覺... 未... 練... 之... 間... 當... 歷...

定可及赤面狀未練不報聊可稍用意、由奉候年

可致如敢稽百台台勸公私急忙、問本還毛拳怒

七謹言違職且至奉筆名也

二月廿三日

監物兼源官吳我原降成仁王

王子更朕親王始賜五十五代天從王王子二
人有幸后版雖中宮白版殿少版雖仁二人有臣
爭相撲覺了有唯仁力良雄長不足三尺雖示
各處石美相七十五人力良雄長不足三尺雖示
為利精惟仁散山憑更連和尚燒鑪乃唯示野山
便揮朴貴他正燒廣乃唯示野山
可思雖以世津殿白便正言更亮利至叶而師給沐
雨申給其修正早勝思少有油刺更向更亮舒腦屬
利精始前良雄勝惟仁即位給也修正思終北信也修而更亮
處心前敢不叶利也修正思終北信也修而更亮

可勝定也其故看山四王辰之物有大江山園重
子燒反封置若負蔣此反可成是神國思給也

謹上 彈正忠殿

祝言於于今皇皇旧惟摘以珍重台台慶要連百重

墨家門近耳繁昌自悅不可有陰限早可令參聖候

柳御鎮入部無相違一條先以神妙、由御威候也

就、四至勝尔境津意至依四至依町陸領、武家

心也勝尔札也甲地東埋、口勝尔也分境更奉從

御宇始定、記境睦、音口、安棲各京地奉汗由

鐵持什陌東西日所南北日陌聊不可被限亂他飛

也限難被致精虔所決、朱奉公忠勤也厨挖飯云

鹽者厨唐人掌物也今膳丁屋也稅飯年始武戶

早課所決人等地下目錄取帳以下目錄記帳文書

清例細法注文書可被召進也有例也言地下人成

法年貢也召進以前代客隱客隱之輩言隱匿田

引付地取可召進也言隱匿田為果料可被注進走名且東

作業之受東春也言春始天子取餉三相無氏也農

夏相水旱之年須計迪迪之地迪也被致無勢有

乃開作之地末日改作也拓居農人令開教之拓農

唐商部由房改寬仁也一月三度拓邑元會飲業樹

下日教善善相為謂此字取谷松山為改拓邑也

故四月一日舊詩生和致侍家人焉於可任用米

宿祿當拓邑克剛臣宿祿云酒也

便者為土民之便可惟固堤并海者佃仰正作勸農

除迫地撰熟田急令下子種子農料佃公田也復耕

並怡促鋤銀犁等農具神農始作之日可令

耕作梗穡早編晚稻等莊西收期可願類新舊法既

得善法燒米也次畠豆高粱大豆小豆養生稻南山

大山手江有黑白重開菜小大豆粟名麥名麥名麥

也小黍稷等立石深香黍稷麥稻隨畑山畠之乾熟

畑部野薑薺燒肥而作之畑至三年曰畠也可課黍

小納稅貢也牛雜田一畠曰畠畠曰其父畠可課黍

代加地子桑田富畔種加地子連每年磨粉之節

敢以不可存自由依怙其身也次節館造作之更

不可有各別作更會舍及屋初作之丰鋪神武初日

石上為奉行早四方搗大堀其內可用意築地史記

里合蒙恬第長安揀門唐門末唐振九棟作也有

斟酌之後斟酌一思慮之也於平門上土門藥牆門

除可相計平門扉上樓本渡也上土門自西方出

限之間竊殿末厚蓋晉板殿廊中門渡殿者裡板曹

侍御既會而回圜裡之間學文而子勞臣下可學文

更所更也小倉將監敬讓奇殊更公文而秘賦之武

政所膳所臺而勢殿性我而扇部屋四何屋末屋也

四方棧數捷思而者性思中間臺蓋曹可上渡用意

美也南面末通望懸馬場令結埒也馬同可第的

山東面末梅蹴鞠之坪被通四本懸鞠蒙崇在類蹴

更又智天王相傳之其后詔預飛鳥并家始也武號

臨陽也坪丈數廣二丈三人種木也臨二丈也軒間

一丈五尺也柳楊松桃口武木武通核柳核也三可

子細南面庭為李也良柳黑柳坤柳乾松也三可

得泉水三石築山遣水泉水蒙海河以泉遺水川井

也立石海川石外破石水切石在石連石副石高石

就石卧右磨鵲羽于石死央双告石三尊石三尊石三尊石

亦有礙有刻落筆落布為律為位眺望隨方角無禁
 忌之樣可相計之相續客殿之也走可立極以臂持
 佛堂考佛也禮堂看煙雨也禮非始五那含主降居
 上三拜神舞拜也上武中祀有二庵室依佛也休
 志先假嘗也傍文可攝玉蕊文庫其中間屏也屋
 地時後苑樹木四壁外前栽之茶園河可調殖也
 望阿蘭世王眠香翠平生語曰我死後以一茶可氣
 万局如其死後臺上生一甲取之服治万病号曰素
 日素連仁寺開山十老國師入唐水陸之號前國春
 振山岩上題之号之岩上茶園昨在章水柳尾相至
 聖人初進獲聖人出產之地被仰下之茶之無意慢
 山峴國柳尾種之自一坊布

秘動仕未可秘抽忠堂之旨所秉也忽之謹言

三月三日 英帝三男子甚嗜稻餅以三之凡故英
 帝以此作解難之又平舒有三十甚喜

三之段河死平舒以此作解難之
 來盡日祇去下中解重三之路有也

謹上 御政殿 玄番先平 今武自板武
 天玉御亭賜

被仰下茶之具以義候軍聊不可存等閑候也
 也

抑御下文御教各嚴重之問 御下文自督軍指
 攻依如何懷忠某國某出何程各別袖陶給也又

御教各將軍官領上奉行亦有該合春之也按將軍
 出狀三之御教各奉督內各之此內御教各賞之也

也奉督奉行欲將軍諸內各奉行人別計各遣之也
 奉一字督遣也內餘將軍私之御心督狀也口

下文之今今三字督其下有之則自國司官以出

奉旨自字簿出口遵行入部使節無異後蔭伏詔令

通行候平吉昏末吉昏取帳以下令撰吉日良辰耕

作業最中也地下文昏更武紛失武失墜錯亂之由

所法人等依攝申言隱田延引之衆恐入候更更

否言紛失之隱又土貢實數等土貢土地尋搜迫

可申陸進尋出人作更未折果柱長押棟木板數

料未未房虹梁之間長押便口第聲里水有也果

為松取令訛候平其大藏數个牛云望山十間有

殺以為舟則我千人見夫如爭通伯不敵而行不輟

才子飲見之走及通石口自吾取齊并以隨史子未

嘗見料如此美也先生不肯視何曰已矣勿言是數

木也以為舟則地以為棺槨則建甯以為器則建甯

以為門戶則腰楠為柱則雲蓋是不才木也筆門冠木

扉槩束唐居數板在左貫木鳳走方立雲胎木

含水懸魚養假木并物於鴨居鴨居山水意木

房水木舞破風闕板毛綠甬木綠短柱簞子唐垣

不見通透牆柴垣策垣檣垣栢障子厨子蓮子或作

新手彫口障元月物也隔子遣戶專戶織戶火入栢

水合西高欄宇立虹梁上柱首足里天井綠障子骨

棟榑棟上連紐押檣木轉背屋檣木如外小

乃一平也

不削而懸 水門舊地、具足未於津渡可全置之山

造斧鐵鑄之屋牙 釘并造作釘金物者用意炭鉄石

后鑑治念造倣也日本俗為依治大照也 改仁王廿七代雄略王伊勢山

田雲作大神宮結 御木工事修理或大工 被言木巧

匠本工修理何作更奉行官 釘三碑后柱三精銳棟

上、吉日未課陰陽或可被定下加茂平陽而武重

身國次樹木夏屋啄栗問天表曰貴賊立屋宇後

天表吾曰東有外水白青竟地南有地比田曰半羅

神相及之地屋又問曰若无相成地如何老曰東林

北木南楊十木西柳七木北楊柳或櫻樹六木

梅桃七月七日而王母降帝宮今侍女案桃源史盤

下何為此桃三千年一花三千年結子李楊梅杞杞

杏有晉州山台子 栗柳梨子椎榛子柘柳城西

栗樹溪木練袖樹子重武柳亭 楊柳

楊柳北根自 雲州橋溫也 楊柳柳以下心之

尋植張平橋以御日記可被仰下也諸堂魚可申入

子細張御領田堵一版、廣二尺也 土茂名主

庄官等名主、戶主也 存野心除舊心自舊出群也

野心也或百 余今未落居之間責伏、後邊參會可

申入之旨可令批露結末也恐之謹言

三月十二日

左衛門尉攝

聖武御宇在大井高成親王始賜攝氏也

進上 玄番先致

御退文

進上自謹上下也自吾十分處上人傳差奇

久不啓案內之間不審千万何等御意惟哉柳御領

興行之段黎民之電朝夕之烟厚黎民黎重不着尉故也黑也故曰黎

氏也延長御聚高堂堂見百姓公家井代武家八姓立民之電張幕衣惟奇百姓十代未下為厚氏故曰百姓也神武四人有大子制利堅羅門照功

勝茂是也制令公家深武家思高人勝百姓也東

西之業繁東作西故矣也仁政之甚不致也烟厚業繁云二豆也當罰

嚴重而三皇水志賞元爵五帝賦有賞有罰知人之堪否理非方嘯札

物之折直者方民之取故也心存寬宥之技強不好

其饒饒者不領靜謐基也果故曰失志以毛不可求

過忌之陳告曰吹毛鷹群也鷹鳥類則毛並悉其吹鷹是吹見端也鷹為敵吹毛無有如求

百姓等而過急武求心也凡先日被例下市町與行有幾所守能國市町也

廻船着岸津并山持今神武始為之春將漁捕惟吉反憂秋敗冬隙是也

神武何將野牧之豆自神武始也定被遵行按市町未通

過小路令攝見世棚銷布之類費重子有賣買之便

樣可被相計也可招居華志鍛治鑄物師耕誰故則區主傳州

像始也本朝巧匠番匠木道并金銀銅細工鋪控像

張表賣迴船人水主梳取河客海人朱砂白粉燒粉
 也望構引烏帽子織商人印玄日商賣通物旦面坐
 里也酒沽杜康杜康夫婦有八童九燕臺一本蓮樹
 去也酒沽下備飯小鳥舍一置故同屋敷日和天中
 熟人面一飯有可燕酢造弓矢細工始一和次弓推
 也改水如石只酒醉造弓矢細工始一和次弓推
 矢何莫帝深草土器作善主壁墮獵師狩人豫知
 取人也下知末也付申樂有四座金春用明御守和列兵
 下知末也付申樂有四座金春用明御守和列兵

童子臺中有系口樹見一始望才三子也明有為育
 着代口臺名采口何勝亦兩人為人之心也性為左
 大臣此子有三人白金衣金春備本師金早天金春
 奉仕春日此金春春家口金春春金春金春金春金春
 郎本赤宮玉星也江山下為山王申辛日吉大是金
 采也觀世振世振世振世振世振世振世振世振世
 兄才依春日更多為神靈人教也觀世夕尊其無故
 列在名伴世本肥名采和列在名教也觀世夕尊其無故
 也故兩人一教矣名采也金剛是恩名口金剛房也
 上川小畑一堂也坂戶中也和州坂戶知行教也教
 別傳達也舊九為教皇多武等法山本有神一
 巨爪使海出房司手和始一手主中主春春日神無
 然也或或或或或或或或或或或或或或或或或或或
 主可心得也走若云而足尊伊爾諾伊爾諾伊爾諾
 四地神女代一後必或人王有知采普不合尊及神
 代傳房人王也神武是也天神田而足尊目出屋西
 代也故奉崇前也前而二室面足也七一表天地長

陽也三波菱面黑蒙夜也午些舊地神才三年七
 尊柳字日月始畫辰年定也治世一万八千些也奉
 表彼神男午秋聲也山上口式三意也事祈禱用
 十一月廿七日春日奉堂式三番夜四座取圖三
 才仕也奉金座有傳去重從太子楊羊尼面自天降
 月舍利九十粒家數重多也教表誠說有也
 田樂入道果也至神前跪多也獅子舞田男也優慢師
 足是田男豐饒形神也獅子舞田男也優慢師
 琵琶法師地神經引受也日本有三縣獅子傾城
 口西子戲弄也一願白拍子鳥羽柳中有鳥午些
 頤人城舞歌頤人回也白拍子鳥羽柳中有鳥午些
 帽子白拍子鳥羽人皆男舞中比遊女夜敷之華
 尊神子刀降水旱計着口白拍子遊女夜敷之華
 而夜行并醫師唐書唐帝唐事也日來陰陽師經
 誰人來并醫師唐書唐帝唐事也日來陰陽師經
 師七六丁至院取全明也佛師優慢主令果者賜
 師切良益工也人室一佛師優慢主令果者賜

賜片帝親臣也優慢主講密心念下今太眼刻仙
 象也或眼仙物利天下結本像男與行向來迎曰仙
 東方万个玉預祝師也解使明帝多金人乃使差
 星性西天望得優慢主眼像至洛陽也寺開演堂
 良仁孝上人細之故作智益也今峨峨東迎是也
 一卒院門寺仙話足明其後鳥羽門寺有聖臺港臺
 仙昨舍皆經師指師趨物師武藝文武弓法相撲
 其來休也經師指師趨物師武藝文武弓法相撲
 族相撲自雅仁雅武禪律西便自市華新出旦禪
 志至是是也自四阿舍出曰律也八宗法相三命優
 舍成突律宗華嚴天台真言也俱成律三小乘也法
 三摩支真無大乘也俱成律法三觀苦天竺所立也
 天摩支真無大乘也俱成律法三觀苦天竺所立也
 命是也成突天竺可利跋尸三尊所立成突命是也
 律宗天竺多主持才子所立四分五分等是也法
 相宗仙誠后撰準善薩出世為阿育大王龍藏法堂
 相然又阿僧伽出世奉諸教勸說天竺法所傳如

命是也嚴華雲四禪門寺華嚴和尚而三也唐代
并編華嚴經至世宗見大地震動則天皇名貴一勒
命是也并宗依釋立一也以上曰一八字也

聖導八宗淨土碩學自中世出也序述不思也仙

未親傳也正法眼宗涅槃妙心付傳于新迎葉云

淨土宗專以三經一論為宗也重華淨土二門十卷

影就三尊奉顯教密宗之學通天不台也自而天竺

撰三傳多流密真言也自中天竺無元才

傳法未音達長教最勝三端多後假駭行名三行傳

聖國也也山伏也假行未未休也假行未未休也

成也云我事此人耳世靈家入尊冰山后松九菴

月王咒乘五卷靈遊仙府驅逐惡神教駭貴德行生

以為使令今日山伏未休也

又有才三未也傳教即法也智夫上人地也言內

傳教越前山屋每越之子也

何口上人佛言若廿二心行阿耨多羅三藐三菩提

未是石名紀傳百廿卷東觀八十卷后漢書九十二

卷以上曰三史并建六十卷魏志也卷東觀百卷太

常軍機四十卷單音五十五卷陳書三十六卷陳書八

軍機正史十卷聯會治要五十卷北史九十五卷南

史八十卷雜史傳覽三百六十卷太平御覽三百卷

雜苑廿卷雜苑十卷初學記廿卷氣集七十二卷永

解十四卷唐書二卷臣範二卷百官二卷朗求二卷

纂要三卷宿和集二卷宿龍一卷家句一卷仙經儒

大切韻也以上二千五百八十四卷也笑仙經儒

夫建佛通等道也至宋平諸世卷前骨十三卷禮教

卷卷事經二卷莊子廿三卷以上十三經百九十七

持

[illegible]

卯月五日

此月卯花盛
開教巳卯月

前乘女正

中書丞

被仰下之旨畏拜見仕俵平就先度御豆各藝才七
 座之店自好字曰藝也七座諸國商人旅客宿所運
 送賣買之津悉令遵行俵夫易京夷易物要也合期公私閑
 他何更如哉定假年貢上公更臨時課假月迫之
 上分一團一郡年貢外郎孝年預國倉主一年中利信勘
 定年節季進貢也更不可遁避收元京町人宣化町
 預字心代預人更宇都
 和列未智以宇進江州拒武宇進平年承合
 元重東西十八町也南北三十八町也榎小路一氣
 近親町去衙門舊司近所勘解由小路中以門春日
 大城門冷泉二余押小路三和陌門榎小路三

或橋子也醍醐烏頭布也東山藍西山心太此外如蟹

綃丹後精好給也美濃上只給也尾張八丈給也

布信濃布常陸細上野綿上總執武野鎧給也一寒佐

渡當伊勢切付給也一伊与兼讀改衣屋同檀絲幡

广福原備前刀出雪銀甲斐助給也一四一及一

長門牛給也黑台天角地目奧州金給也一自奧

坐无給也延長有二十由旬樹名阿浮樹葉熟入海中

其汁製為金銀砂石則研石皆為金矣給也一海

備中鉄給也推日鉄木栗也言栗鉄性也越後塩引鉄

引也隱岐鮑周防鯖近江鮒通鯉給也一化作魚也土佐

村木安藝轉餅登釜河由獨備後酒和泉酢君拱椎

西府東宇賀品布給也松浦鰯給也夷鯉給也興漆

琉紫穀或吳國唐物高麗珍物給也一曰銅餅如雲

似霞走易賣買利潤未起邊四糸五糸辻性未出

入貴賤未不吳京都鎌倉元御領豐饒而甲乙人令

留宿屋作家式尋常上下已神妙也急有御下着可

有高覽汝須催進御迎夫力未也忍々謹言

卯月十一日 中務省 日奉給也

進上 未女正殿 下進事

良之陽面謁積賢如山何日披蓁霧哉非面談未重

不可謝併期冬舍柳蘭東下向大名我三官領四

高家人今不領國依後以路次便可被行寄由內

其間候折節草亭見苦數資具吐具示散六式候

亦預柳枝持未離隱今度恥辱被助成未生前大

幸也臨時客人煙頭外無煙煙頭外無煙煙頭外無

成今煙煙煙頭外無煙煙頭外無煙煙頭外無

無心所望候經幕十二也札教十二也札教

聯緣墨際緣危延四言煥屏屏屏屏屏屏

六祖恩借末以人夫可送始候此外打鈍子用西

人五七十一代連衛不冊州大山有酒車車車

此水酒進酒一方口入毒飲童子四人童童童童

言累左金包提子青漆鉢鉢鉢鉢鉢鉢鉢

懸盤引入合子皿皿皿皿皿皿皿皿皿

作鐵輪輪輪輪輪輪輪輪輪

也家人若堂日日日日日日日日日

伴中也武斷內甲甲甲甲甲甲甲甲

非也短六葉瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜瓜

也有子細也并來家仁等皆以無胃田舍人也

配膳勸益料理包丁
菓子曰包丁為主重君解牛然登刀膳必隨曰包丁曰堂厨丁僕人今供膳也言下名也又重君里王也此取用菓子重君也供持刀也為合拍子也日本大車傳又寸方四寸易也大槩以九寸五分為法言為四九重頃也又若一人二寸重表十二目錄也或盛物以下致實戰末古改若刀金台而部是也
實道也知一二兩輩可令崔結也方重奉武父母思候古通人也

早敢以不祕可弄指併期奏拜不具謹言

五月五日
楚史楚人屈原字是均為平閭大夫被逐出而隱江畔盡投閭闢米而死即五月五日也後長沙人歌曰屈原行原在閭闢曰我今受飢餓君留重相隔否曰何以謂哉原曰作蘭草一飲武草包飯以五九也亦楚人投水于吾不然為姓竟思恨若以余亦疑竟不食吾笑而原以

休閑飲糖拿八原重石見田謝 左京進平

進上 秀人特監殿

不審千万之幸玉章忽到來更無貽餘贊以便直被

徘徊者公本望也徘徊者係我姓也 抑客人若臨結攝奔走

奉案候茶被借用之具足於所待分者令進之候灯

臺火鉢躍燭臺魚不秋載注文而進也它未馬大豆

秣糠藁味啗醬酢酒塩梅以海為精蔬以海為塩梅也 并初獻料

海月史記曰吳運句曰掛岸指一挂始之差也 蟹汁鮑鮑也六月朔

外政崎嶇海士堅飽作樂十六日神豆獻大神宮由裡長九取次奉之故被崎年貢七十俵許也

青下海脈也似家
自昇出邑而後
海上無人能知不
而之

科匣 梅子削物未干鯉必鮑干鯖魚躬前海泉生物
名也 者鯛鱸鯉鮓鮓王餘魚昔神宮皇佑三寶退治水軀中進鯛鮓其美食羊投海即
化爲魚改曰雄兔雁鴨鵝鶻鶻也曰天鵲俗作鶻非也
雲雀水鳥山鳥一番塩有未鯖黑作鮓白干鰾非
皆二破天 蛙塩引鰾鮓塩漬干鳥干兔干鹿干江
豚今燒以熊掌手足捏沃浸手足揀木取上佳鳥鰾
以小鸟鰾味啗海鼠腸鳥賊辛螺菜螺蛤蚌支雜魚
作鰾也 醫之虫也 等小魚也或買儼之或乞索之令進
俟獨以不足宜候未可給使未也恕之謹言

五月日

大史稽監本江

謹上 左京進殿

フ送更

通達 第四回自注

此間者依運之物悉牙忘密之難該誠不慮之至也
抑世上既屬靜謐之間爲鵲鷹道遂致企參入候之
鵲鷹作之宇始也教曰鳴降鳥降世改懸見魚水算
大景笑鷹未仁作天主之松水相未卜之曰何州月
野原有三足雄彼鳥奉松之申之龍之唐岱山麓有
清秋人三使鷹爲遣保郎相傳之唐和故取此鵲自
真之松手安也清秋天皇人也或時鷹鳥爲巢生子
之長有飲食父之氣父畏之去巢一尺二寸而養之
即極鳥也教謀之而取而使也 藤教及近山徒迴等
以一尺二寸爲鷹計宜自此始 藤教及近山徒迴等
策引卒盜賊狼藉惡黨令峰起于國之 盜賊蜂起山

賊海賊強竊二盜徒黨今橫行于所之奪取諸人
 財產追捕土民住宅剽取族人衣裳之同為謀伐
 追討大背軍依社教向方今當家一族同馳向彼戰
 場被却城郭三里口城追伐所相範之賊徒可擊回
 要害云今因一近日致令進教惟此此間戰場武具
 衆馬以下全負失候平武更甚事着弄體宿血脈
 恭并御衆替等御助成候者可然也今度出立未當
 家眉目一門之先途也門業之人之可致粉骨台戰
 之旨粉指也自常不經寸令約諾候若存余仕候者

再會之時可申入候就中背軍家之御教書嚴密之
 上下結規御旗等間六具五武羅二藤三拾四射手
 合規焚會休母不獲武休武羅是也按而規臨陽和
 羅晉屈集并教生傾許境上然同帝又規看碧上始
 故大規則滅矣卿仁亦可有上境署立規規發法底
 三年如來按身給加沙也侍戰場出死門也看規則
 貴次示修日也定無司導戰仙也改着規兵可取也
 豆也為赤白夏有神常宜結始也金台西部之義也
 羅自仙代始也日本有山名客即表日天月天午也
 大神八幡春日也四尺八寸又七尺八寸也竿長一
 丈三尺又一丈二尺八寸也神布以爲武袍也又
 王八幡也射日月也射于旗長三尺七寸度一四
 尺八寸也表八幡春日天照也下有家紋也
 威外威之一族由付母令一控未也控可且依戰切

忠否

不忠

且匪軍中淺深教活朝恩於諸

相傳分領一而聚會之地未至可有子細未次依

不歡餘余不殘心應假情仰仰新容也恐之謹言

六月七日

勅解由次官小野

謹上 後藤兵部尉殿

只今教進便未候延應而預言信帳余相叶本懷未

也殊以喜悅今之抑戰場御進教之宴夜前始而兼

也給旨當若宜也君所詔台勅也勅言八詔端旨信

申上口差向尋下口勅向返更院宜未大應之規式

勅番手而勅筆張筆言也

院宜自仙間下也天子御位下有太上皇平尊号也

院中出御前會也示當心宜法王勅教下外人承朝未

院宜也又依佑當公冬口差因當居出御中會中

由禮位山空庭百文宮今旨春宮武

元重告何楚中更也令旨官府宜未自后下口

今旨也春宮太子親王太子也非今之指南

官位明白拂教之宜也春宮

閑之言也指有教訓之也也周水南城使未教

使未通得暇國更改日教訓大指軍有從更

為指更也談之也大指軍

軍口官也而御教書信筆軍勢催促又非信用之

將軍家之御教居執更之疏行其日御旗始人也改

宣執權也疏侍而奉書未規模也且嘉例且先規

此鳥也。鷹。箭也。公家曰。一。鷹。羽。

雁。僕。只。夏。羽。一。鷹。羽。錯。失。各。相。具。膀。當。弓。未。

多。羅。子。言。初。以。多。羅。科。枝。本。重。飛。墜。卷。尔。累。等。也。

作。一。騎。馬。弓。墜。卷。弓。也。加。弦。冬。年。百。箭。一。二。箭。為。一。桶。七。太。刀。未。兵。庫。

領。也。鳥。頭。管。取。物。在。一。張。一。日。一。面。也。螺。絲。螺。絲。細。并。金。

作。尤。石。卷。白。柄。長。刀。同。手。舞。馬。未。連。錢。草。毛。杆。子。栗。

毛。烏。里。河。原。毛。鶴。毛。黑。鵝。毛。碧。毛。青。龍。毛。髮。白。香。最。

月。額。草。毛。駝。鹿。毛。踏。雪。等。相。副。舍。人。飼。口。金。輻。輪。螺。

幹。白。橋。黑。漆。加。佐。也。張。幹。料。乾。橋。金。地。鏝。一。雙。白。

唐。書。一。口。大。報。細。助。手。繩。七。七。尺。五。寸。夏。間。張。

中。口。有。式。腰。子。夏。今。日。武。當。山。自。理。山。老。樣。出。

王。愈。一。上。其。日。將。被。接。漢。司。青。毛。子。而。獻。王。而。解。夏。

王。以。弓。弦。引。一。蛇。也。豹。皮。物。陳。寧。故。唐。書。後。虎。皮。有。

自。一。也。也。服。帶。係。不。豹。皮。物。陳。寧。故。唐。書。後。虎。皮。有。

眼。百。步。賊。人。呼。名。若。免。夜。一。目。致。免。鹿。子。四。付。一。指。

一。目。看。物。待。人。射。一。免。夜。一。目。致。免。鹿。子。四。付。一。指。

水。豹。熊。皮。泥。障。水。豹。熊。皮。泥。障。水。豹。熊。皮。泥。障。

八。寸。也。長。統。短。四。有。大。夏。為。柳。錢。奉。進。一。無。糧。八。木。

井。根。鞭。大。是。物。用。一。也。為。柳。錢。奉。進。一。無。糧。八。木。

韓。晉。稱。袋。行。器。野。苗。料。雨。以。敷。文。展。以。油。草。等。難。具。

心。不。及。奔。走。一。又。足。祿。存。知。後。然。而。先。懸。分。捕。走。

武。士。名。譽。衣。詔。後。詔。者。陳。旅。之。軍。教。也。弄。一。傘。被。賜。

粉臂者唇載謹判狀可被備後胤電鏡也電鏡昔人始得鏡也故鏡神銑付電取也莊子曰電鏡只鏡也日本天照自鑄鏡送我始鑄鏡有辰紀川日前宮有之右傳鏡有甲勢故正月念鏡心之取及可尋達用三表之義也神祇多有口傳也尋常之具足之取打即前之志劉大畧此式候也諸
亥期御飯宛之時忍之謹言

六月廿九日

此夜有各職祿交秋交代儀也亥犬上秋金相對故秋交各據相克災也

謹上 勅解由次寢殿

之遊更

兵部兼冊治

臣忍申入候不慮之外被驅加傍草之取營候之間
微力之取及依令奔走東西不得寸暇直持愚狀候

臣不得寸暇故

自由之至得御意由之可被渡申也

臣及傳奏各義

勝負之短營候為瓜流可入物

非一紅素重楊裡薄紅粉也之助小袖小蒲子織物

常衣深紅袴美精好裳唐綾枉文之

文也唐衣袴

業此紫羅袖之

葛袴練袴浮文綾摺袴各目結天漆

村紬襖淺黃

水色小袖同懸常袴袴手相硯答硯子

作冠表衣水旱

旱衣袴天下袴衣烏帽子並

作星行騰

房鞆牛胸懸等並非上品佐陸主元

星行騰

辰辰

房鞆牛胸懸等並非上品佐陸主元

證上 左衛門尉殿

下着以後久不啓案由帳系治如意性日苦思頗非
胸中等間只自然之懈怠也然八帳都治陽靜諡曰
舍無爲貴過極本望也愚身快樂可被察也就中衡
引付沙汰先代定所決也定可被付收而領安堵遺跡相編
越境凌亂之際款款參訴、如此間疲勞而領倦條
難合期帳實貴方衡校持可進代官也短慮未練、
仁令暫古、程不、被如衡詢未越度出來改被合占
草業去代被引專奉行而未忍悔帳引付問注而上

裁公言、可也勅判、解異見候定、趣評定衆以下

可注給、御所汰、法、而務、規式難務、流例下

繼成敗成敗也債例俸令俸令也規式難務、流例下

指造補指造也武家無相遠存知仕度候以上候制也虫晚

學候童雪鑽仰、切重間聚童雪各在衆指手房切

堅言堅言也學士子通終成子也命告曰御所云鑽仰

一見於不審、更未可尋明也江筆等虫雞叶候非

訴小公更風情計未成管見、窺度候管見也管見

心更不又舊毫併期而拜忍、誣言

七月晦日

加賀大善和氣

進上 民部大輔殿

依無指宴常亦申通疎畧、至江入倭地、苦問、未
珍重、今日未本望忽以滿足仕候乎、廢元何宴如
一、或四海太平一天靜謐、宴人、據吳一昨、幸祐也
御沙汰、宴嚴密、被執、行也、更非停滯、頑候、政道新
訟、若有悲、緩急、候末御在治、費也、可被用意
治持、計畧、治持、物、不足、
被治、用意也、先被進奉、狀於代官、未
公、所出仕諸亭、經、廻、可申口師也、謀、亭、家、作、法、也、
言、金、口、見、也、

奉行入贈、贈、衆中、屬、說、上、衆、秘、計、所、以、取、口、入、頭、人、
所、以、取、田、奏、取、嫁、娶、宜、
取、人、也、肩、見、窺、機、傾、可、申、讓、狀、謀、
史、越、境、遠、亂、未、令、甲、子、次、弟、甲、子、賣、買、所、事、取、尾、
年、記、臺、也、私、曰、廢、子、
格、領、語、代、相、傳、武、具、重、各、等、未、於、引、付、方、可、被、進、
御、所、以、頭、人、上、衆、圖、問、圖、合、也、
御、所、以、也、細、
也、石、筆、奉行、人、等、居、終、日、評、定、也、
御、所、以、也、屈、更、無、御、
休息、代、被、勤、刻、就、問、注、也、
御、所、以、也、如何、意、
賦、執、筆、各、子、問、被、奉、各、於、諸、人、之、取、及、西、度、無、音、
七、御、使、節、被、下、召、符、就、遠、背、敬、狀、不、立、被、下、知、于、新、

人令召進、時被封下新狀書三問答於新陳狀一

狀命人違背、至要、直、新、人、下、知、居、若又奏則新狀封下至三問答也、於御前進封史、伯

雄雄是非奉行人令取摺豆各於引付、窺御詳定、是

見所令成敗也、問誰能去永代、沽券尺二寸、長三寸

也、即賣買、安堵年記、賣買、毫、年、記、也、心、放券、如、碑

札也、雜人、放券、如、碑、永代、券契和子、券契、係、契、要、之、札也、負

類證文等、謀實負、責、古、負、札、明、官領寄人石筆

奉行人等、評判也、奉行人得差符方子、方、子、奉、行、人、

下、可、受、持、當奏仁者成各下、下、可、國、之、水、者、下、奉、各、

仁奉主人也、下、人、在、部、人、無音、之、水、去、下、使、去、召、受、

調新陳狀相對當、新、陳、狀、相、對、當、執事管領奉行人等、可致問答

披露所法就探、之、吳、見、所、加、下、知、也、侍所未謀、之、

法、天下者、也、背國、回、謀、背、國、輕害、五、

山海、西、賊、強、竊、二、盜、放、火、丹、傷、打柳、路、

勾引、路、狼籍、人、知、狼、關諱、喧、嘩、等、也、管領、執、

奉行、人、搜、新、之、司、代、山、管、竹、始、也、司、代、京、極、

京、極、賦、新、狀、於、石、筆、之、以、小、舍、人、或、下、部、等、

召出、犯、人、於、侍、所、記、錄、申、詞、依、言、他、牒、懷、疑、札、明、

武前臨北而等

此面壽人也。或謂
崔仙洞之武士也。

義之敷綺羅羅天

陳貳散花

陳臥左右行列
或陳年伴也

將衣水旱供奉人淨衣白

五、蠶布衣

唐布景勢大也言

永文檄當行粒驚目

家文當色色，狂文盡色節。鑄金銀丸，于中間雜。

也舍人牛飼等打花主乞就中後陳武士誓固勇士

色、甲曹思之、體面焉、翰弓錄着、重代、重空、用

新調之美屏自門前者前後、隨兵番上下、左右、太

刀帶列二行。御帶刀、佢人御調度懸人

調度應有數
說鳥懼子應

緒云說有文曰生謂虛稱有此四字別也晉書云一
言虫食毒射人虫也以此虫曰生虫歌也或文人行

100

步必穩馬應碾容目並手齊手並足入事上有文

也曰飛度福

作人司事者也。主官

調製成藥羅。

東人新羅人
方陸寺己鐘於庭上祿

男ツ 仲圭 椿華 錦糸 火未 別當 社傳 未解 經紐 於至

降神者也。男爲八乙女者曳裙帶舞。

遊奏^ス神樂^{カサタ}男^ヲ取掌者^ヲ菱色^{ハシロイロ}五重^{イタタキ}着也^ヲ神主^{カミナリ}合

調脂子同候拜發加臨不倍從七六二八月當

神樂朝倉_ヲ及詠物_ヲ神_ニ羊調_ヲ拍子木末_ヲ賓禮_ヲ奠_ヲ賓奉_ヲ

也。禮記曰：「秋奠，却俎曰：『秋菜以祭。』致如在。」又神農

與嚴重之態誠以揚亭也耳目所及不遑悉筆
只仰高攀而已恐今謹言

八月十三日

左衛門尉

謹上
大内記殿

御法談。後常可令差仕言上。旨相存懷。但依公
私心刻令懈怠。余越度至背。仁意冥應。改悔。并無
弛慢。抑近。日執行佛度大法。舍懷養拜請。貴寺長老
定甲。當日唱導。度懷可被召具。肇未侍末。四只喚叫
行未。諸客。今今侍頭首。斗光臨。懷未可進力者。駕

興丁帳可有御供養条々

賤流云曰供養精舍一宇
高施賤曰利益

精舍寺也
一宇家之

三重塔婆

一重曰室初

院開也。二重曰

智如來

集大日十

一重、未仙、十

三
重
阿
耨
多
羅
三
藐
三
菩
提

起一塔

羅漢文

大也。主也。臣也。所

會曰仙言中人可

性
善
人

天作福田

半分已

盡已爲世間輪主

也、知來塔

十三層支

仙遊縣志卷之三

計有級之重
不誤四層也乃至重

子戲衆矚
見我

為仙塔，偈

三威仙也

魏紀 仁威后帝皮

七、宝、来、一、

日一夜金

星室香多室

世
重
子
子
子

造八十四
大仙殿

午塔也金

大

金村 亨

榜始造一

食堂付

也。

隋堤屋
 錄
 卷之七

神也我朝自相國寺始有佛寺僧方金龜等身

10

也言主立且那長王也又后二家國白依山王舍
 如來白檀白唐座像菩薩言上求菩提下化眾生也
 各服侍三天少門天也刺調言上求菩提下化眾生也細金彩色繪像各一
 幅后使明帝使李景性大坐月伏同得像頃賜薄濃
 墨登一對九曜曼多羅唐一皆阿闍梨玄宗明依罪
 地通言路送地道維人路南此國有此路一
 隊行步千變速然下守无妄罪改天道現九曜
 和便真言書寫指馬御經轉讀般若天王乃利侍
 本尊是也書寫指馬御經轉讀般若天王乃利侍
 永始讀誦看經口誦勤行秘密法護尸煙

經四一三
 卷

調伏之也可輕唱滿陀羅尼此說教持念誦真言
 莫自言中靜出也莫言初禪木月也天武言智
 歷八今事也天台自蓮出事本佛傳教于此
 皆天台稱名念佛信三也又求信三也又求信三也又求信三也
 祖師也稱名念佛信三也又求信三也又求信三也又求信三也
 單是觀也般若經曰凡九旬供華一夏一隻一持
 念化乃至解苦其指不令凡旬供華一夏一隻持
 有持也禪持教行人等人也持待千僧供養
 非人施行等也施自像壇主始也但佛布施并
 秘物指出也給布雲銀物等用意輕賤也錢
 又佛銀引皿經御助成可被執行金非御讀嘆
 手物形狀皿經御助成可被執行金非御讀嘆
 後以言白計始也可被鳴一磬惟也二句御

哀憐慈教白

九月九日

佩華更食餅飲菊酒金壽長沙祿

誼上 侍末衛中

芳札之旨令披見惟平誠可有御給仕之旨祇誓願

惟按四生無邊誓不受法門无边誓不受于令懈

怠余允情常事障也尤可被謝未也唱導之享

申入惟處臨其期手團可給御迎也善根豆豈日被

進諷誦善根施物也伽陀此曰誦誦體文回向言於

此功位向薩婆若海佛像經卷諸嘆末不可有子細

堂塔供養并法華八誦者相當大法會儀式按

華間晉也后二年閏白？惟賦北政祇三教一中主

大鳥居門興曆二八王于外嚴侍談頌人吏掃庭塵

一今日宮柱也三每日律花間香未代至二忌也改

明日銀三月壽誕延陪也知州甲申莊八王于寄進

如白律花命爰是也今可有法服豈高座大行道等以

問末八人香末八人今可有法服豈高座大行道等以

聖道名便可被成其即誦師上壇法讀師注記

主位 聖者釋前座位也聖謹談七今誦師疏起探是

也并嘆敬聖也此奇明敬近梵音錫杖釋誠

法如免願加十仙尊師等可被加請人也自嘆以下

對佛

伶人律量儀式殊大切也鬼便太平法會指南以

為宅已被用意物未緣道銷講處其上也
纓帶大空三座經蓋以經疎路如意香炉香箱白蓋
金剛白拂毛作故曰白拂法螺法螺也燒香造花卓
机机也臨時纏臥未尤道之儀也无周障樣
得御意可被認改尋細期見參此候忍謹言

九月十五日

侍末

謹上 平入道殿

入院影命今也 退院西堂前佳也 入久

不申振着候間近日可招請申候次且為看經看經
且為誦經可被行大肩振大肩同未結策以前
可並時分候辛辰旦反禪律僧眾諸寺諸社今自曹
也聖道與從屈諸更候也屈諸一山供養不主但時
占心作法佛留陀夕間拜是他家至去不后寺計后
所知之而入人愛打柳佛留陀自佛留陀自
所定有天主毒意降大雨似方氏佛留陀自
故竟鉄團山外自鉄立鉄團山下太平也養正
始終人佛陀進同改解而卧田中鐵團石后胸上
佛留陀進同改解而卧田中鐵團石后胸上
音大竟制今狀不其出家者不否同改禁僧
物布流次弟無改更候調養仁立立行若等中器用

仁心令存知帳收奉細可示結託禪家未堂致和

尚今今左近誦東堂西堂東堂衆無任地今今今也

并知豆方夫後未都寺監寺副寺維那典座直歲都

官都司以上皆修造主茲營奉堂主掃地淨西淨

頭首方前堂後堂兩首座前堂正當二位各記正當

并主知客浴主瓜品燒香後未各狀諸客後未

湯藥後未承辦侍者主衣裳餅後未此外香

諸僧此君旦僧也塔頭坊主坊主也寺中且過僧

平等供雜地名里山主庵主沙弥六任上司女任

過住不宿京也

息房受也沙弥唱食此口字法三年一箇不別

羅切羅切額額行者參頭行者未副參真月望參入月供

頭掃廚堂司庫主炭火調茶人工者都人工中

出細山寺木寺門寺火鈴振等也律僧未長老

觀者身長老一法長老丁達法性知豆禪月典座沙

祇八肩戒五戒加三級也只人工法師等也重道未

一寺接授今今執行別當長吏三井寺學人

子歌也座主有散山末今今院主執當重事

先達引導下阿闍梨法橋後也相律師官法

眼臣也相僧正法印僧都法印山月代巨制石堂

大勸進法印主法印堂法印小別當法印得來法印

下法印堂法印預法印野山法印專當法印當都維法印那法印爪呂奉法印寺

仕以下法印兼仕法印官司等也此外有職僧綱法印僧徒法印

等猶以禪家方丈相伴法印選法印僧法印陪堂法印外法印僧堂法印華法印手

大臣法印重法印後法印生法印善法印延法印事法印六法印八法印以法印獲法印東山法印主法印四十八

向法印西法印手法印台法印南法印無法印安法印養法印教法印主法印祥法印陀法印善法印也法印三法印客法印六法印道法印教

生法印僧法印度法印云法印回法印向法印衆法印教法印給法印也法印垂法印直法印者法印送法印僧法印驅法印使法印同法印前法印推

依法印大法印毫法印大臣法印中法印也法印重法印直法印者法印送法印僧法印驅法印使法印同法印前法印推

參之道法印俗法印臨法印眠法印客法印人法印性法印人法印教法印曰法印巨法印心法印曰法印布法印施法印物法印亂法印薦

次可法印往法印結法印上法印下法印只法印也法印諸法印豆法印柳法印才法印竟法印之外法印无法印所法印憑法印亦法印貼

心法印底法印被法印示法印之法印去法印尤法印以法印本法印望法印也法印意法印又法印先法印日法印內法印之法印所法印申法印之

掛法印塔法印之法印僧法印豆法印無法印相法印遠法印預法印許法印容法印未法印畏法印入法印帳法印每法印豆法印期法印參

拜之時法印恐法印惶法印敬法印白法印

十月三日法印主法印日法印作法印餅法印會法印之法印金法印人法印主法印病法印也法印阿法印弥

進上法印衣法印鉢法印侍法印者法印禪法印師法印之法印六法印地法印其法印德法印要法印立法印了法印

柳法印札法印之法印旨法印柔法印細法印柔法印候法印大法印角法印之法印射法印心法印豆法印羅法印申法印尽法印帳法印柳法印調

某法印人法印等法印無法印可法印坐法印黑法印用法印仁法印候法印間法印粗法印任法印愿法印才法印今法印鞋法印進法印候法印柳

江州有露底生 澤茄子可隨水置物伏免 用曲

餅燒餅菜 用 未與米索餅糲等為客料可飲用意御

時人食此 寧午畜生坤 而思氣子以前可被調置系

具未連盡天目 名 胡蓋湯盡 胡 饌 名 并木茶

黑八入盞一對茶甄 柄 茶筴茶桶茶巾茶抄免足

至蓋蓋道也 湯瓶罐子桶茶 名 磨并梳打數豆子櫟

子追膳三峯膳月可被副整也御水汁未豆富參辛

練 汁 菜 辛 雪林菜 菜 并暑預野老笋蘿葡

山葵寒汁等也 山葵似大葵青葉如薑飯 菜為絨蘿

細排布或寒汁也根豆也

葡 土根 煮淡牛房 牛本 昆布荒布黑布烏頭布

落而蓋非清茗荷 宋各片寸銀各名荷 花后

子 日 芽白相作 名 蔓物茄物茄子 一名落藤 昨菜

瓜月漬鮑豆 菜 青菟餅和布青苔神馬藻

或千月苔鹽苔酒面松茸羊茸雁面等 神 神

海 中 藻 白 始也 隨侍可引時以後菓子者生

栗搗栗串柿熟柿 干 寒花梨子枝椎姜田烏子露盆

子百合草史陵子隨御自安可有意開之請暇病暇

奉暇暫暇僧眾定浦山數之被思牧浦山二字万難

也差如彼二

瘧病咳嗽痰壅腹等未如敢見如懷疾癰狂癰病傷寒傷風虛勞等未元艾覺長同持師合藥臨案補藥等未任本方以名醫加減合一劑教令服此藥糸尤所望也禁好物任文合食禁日記任藥殿壁昏可寫給候方端雅馳筆併期面拜之爪候恐亡謹言

十二月十二日

謹上
主計貳殿

杖玉章親嚴旨御用望既分明也如御當道之名醫

未可有奔走也權侍醫邊
子逢子逢一一人一人逢逢二二人二人逢逢三三人逢逢四四人逢逢五五人逢逢六六人逢逢七七人逢逢八八人逢逢九九人逢逢十十人逢逢十一十一人逢逢十二十二人逢逢十三十三人逢逢十四十四人逢逢十五十五人逢逢十六十六人逢逢十七十七人逢逢十八十八人逢逢十九十九人逢逢二十二十人逢逢二十一二十一人逢逢二十二二十二

人於此史藝振出置也半殊毀人也迎字付字也
毛子細也蓋有佐使君臣美則佐使其賢急君臣則
病也讀月一流之眉籍瘳類共若卷之達若按群之

仁侯 不寒暑 四氣不寒 陰暑 燠熱 三陰 喜怒憂悲
思恐驚 七情 此三陰 曰達志 事甲 革種 三百 二

十立權也君羣百木臣羣百木依使羣百木立權也而
上羣百木權爲君主羣性以爲天鬼毒中羣百木

雅爲臣主命以底人百毒爲毒下擊百廿九村但溪
馬佐使主治病以底地多毒笑歌陳仁口一呼人

唐軀依中純華種之直間昔自日射於大屋遠
官物其官壹佳日遠唐

三卷一本 壹富計一本 壹去 壹層 崎一 招一本 壹卷

大華秘藥法書前真作和月
用藥也寄垣之教也

和藥未可參也。五木
今合梅柳八草
柳葉板也。
今合蓬花重木
杞車前莖薄白。

本草云、陽治風呂溫泉等未溫泉在皇无指黄元

房內過度酒陽醉則以面直者如熟粉毛而目睜眼

昏沈散伐散動食物飽滿所作辛勞不厭惡慕之辛

若長途窮屈孫亦疲勞則若勝氣悲歎勞傷潤久失

食渾更夜食五更空服而都者曰自夕至旦冬夏

至四退在中水暑長短等免不三縮不

重服皆以慧忌之宜復極意可被着性也恐之謹言

十一月日

謹上 宮中輔殿

破部某飲氏於田裡

御性國、後鳥免推移不逐面拜候間、鳥日能月也

出、金甲金射、即射落也鳥也又平迦中廿行如鳥

中未燒我身教然似食事又厚感、上天裁月故出也故曰如忘性日、眠進隨

而御上治、処、不預音信帳、糸密契、无其甲斐、

也神代、東海通甲斐國、用要密教云云也、備心、

至魚存悼誠及推望御氣也如何思國、玉座務免振

等言御於云祐、旦祐、旦何此哉、日限也日被

系未可止能行也且佳國、降在廳人等自京下居

人言任國所行府處中、被官輩形勢着府候式官使

大臺、饗膳厨規式西樣

饗膳厨二也又納法郡司

判官代等

杜三心也

所決為父竟可示結也為誓石

巨細兼受候何樣遂面謁心更可啓業候忍々謹言

十二月日

金吾北口此月陰氣旺陽氣始未隆

帝使相親身著半衣手托押額口唇離

集人佑在東

今意以驅疫病思至今節令辰居也

今草手申將之或也草手午生才四王子何伴親

穿七天上然也厚中つ亭三望山臨水役被冕

始透額冠着同着忍指衣角白中牛被給女郎侍人

立給改立郎中侍中也其右恭和十四年己卯在

衣性給辛白在衣中侍中也彼中侍伊勢物產常

高つ衣初作島冬極名衣着男一人來面白物產作

信衣武草奇二音入有島白何方つ奉睡惟武河給

其久更无右神爪伊勢原萩杉敷藤廣覽藤原邊又

思更云只休武其人无如振語主級給衣被自物々

方つ通復哉問是自伊勢計治如失給衣无氣然白

伊勢大神宮之使也名之伊勢物產申也既多業

手一生隆

御消息忽故見路重々々

息甚如得玉珠非參拜去難謝之柳邊遠國報依

難通音信乍思馳老陰遺恨深重也何水謝之便可

啓業内之延路次之疲勞長途之窮屈只此然之外

垂危依恩向而報驚也人境看候候式着候只着府

吏務法儀无殊子細在廉人等日並出仕恒例奉行

無等閑稅飯盛物積物以下冬祇即景物難享厨調

糧之義物廢庭改所屋庭延營番年祇結構番年田園秋所錄口

屏中如或市回遵行之夏大介同也稅所納年番記

壬居公文田祇結解勅定曆生德志刑官代勅文覆

勅公破取所郡司權守日記目錄國奉小目代保所

代甲代也本日催促迴文下司言被富郡司公豆引

付微使定使給分言祇代支文言我以後知何張或

各主百姓請取返抄言納札言原地取也臨水之巨

便證跡祇服貢箱調進準箱準布箱布都附例別納

並進諸王國代官然催促到人獻進三別租穀租米

之送秋何年納祇卒法收納徵納之附期現物色代

之債色代吉納代也未納過上準租準年也貢

取其一年過上準旱水兩損換田不熟損乞之勅注

算用散失都令勅令聊與其煩加之諸社神拜宮之

奉幣寺之入堂節之法舍重之仙宴寺先例與忘懷

也怒而與吳低勢民而細法之判潤美大也與難混

附鄉保之之五邑三保而土貢之規利巨多也言夏

任雅意

雅正

一而無遠心之憂多難於紙面併期

後日恕不謹言

十二月三日

裁書寺礮部

進上 集人佑殿

つてま

庭訓佳奉終

錦城

御覽

工綴同大山野内宮下住

賜書

寶永十七年介介

上經列周之郡貞元之郡八情境常任大綱言求之

能識序

西經之出周集郡大山野村中山七處行門之



